

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの記録を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

先進医療としての腹腔鏡下広汎子宮全摘術の再発のリスク因子の後方視的検証
(JGOG1081S-A1)

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院産婦人科

【研究責任者】 藤岡 徹 (産婦人科 准教授)

【研究代表者】 小林 栄仁 (大阪大学医学部附属病院 産婦人科 助教)
金尾 祐之 (がん研有明病院 婦人科 副部長)

【研究の目的】

早期子宮頸がんに対する根治手術として従来開腹広汎子宮全摘術が施行されてきましたが、平成 26 年 12 月より腹腔鏡下広汎子宮全摘術が先進医療として認可され、現在多くの施設で行われています。腹腔鏡下広汎子宮全摘術は開腹広汎子宮全摘術に比較し、技術的に安全であるだけでなく、腫瘍学的にも妥当な術式であると報告されていますが、そのほとんどは海外からのものであり、わが国からの報告はほとんどありません。すなわち、現在わが国で行われている腹腔鏡下広汎子宮全摘術の現状は不明といわざるを得ません。そこで現在先進医療として施行されている腹腔鏡下広汎子宮全摘術の現状を把握する目的でこの調査研究を計画しました。

【研究の方法】

(対象となる患者さん)

2014 年 12 月から 2016 年 12 月までの 2 年間に先進医療として行われた腹腔鏡下広汎子宮全摘術を受けられた患者さん。

(利用するカルテ情報)

患者背景

生年月日、年齢、身長、体重、BMI、妊娠分娩既往歴、手術歴、臨床進行期、最大腫瘍径等

手術

手術日、術式、術者、神経温存の有無、子宮回収方法、リンパ節回収方法、臍管切開の手法、手術時間、出血量、開腹移行の有無、輸血の有無、術中合併症等

手術の内容

手術終了時の腹腔内写真、摘出検体の写真、臍壁長、摘出リンパ節個数、子宮重量、手術ビデオ等

術後

術後病理診断、術後合併症、切除断端の腫瘍の有無、腹水細胞診の有無、補助療法の有無とその内容、転移リンパ節の部位、数、術後入院日数、総入院日数、術後残尿が 50ml 以下 までの日数、再入院、再手術の有無等

予後

再発の有無、再発部位（再発確認日）、生存の有無（最終生存確認日）等

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

婦人科悪性腫瘍研究機構 (JGOG) に参加する大学・病院で実施されます。JGOG の詳細につきましては JGOG ホームページをご参照下さい。

<http://www.jgog.gr.jp/>

【外部への試料・情報の提供】

本研究において、当院で得た情報は個人が特定できないように加工し、当院にて集積したデータは CDROM および DVD に入力して、データ解析を実施する大阪大学に送られます。当院にて集積したデータについては本研究終了後 3 年間当院にて保管し、また、データ解析を実施する大阪大学では集積したデータを 5 年間保管し、その後破棄いたします。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者> 愛媛大学医学部附属病院 産婦人科 藤岡 徹

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護および知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院産婦人科 藤岡 徹

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5379